

# ケーススタディ： 品質重視のデータ ガバナンスによる 保険ビジネス プロセスの最適化

## 概要

30年近くにわたり、PreciselyはこのFortune 100企業に入る相互生命保険会社(以下、A社)と提携し、同社の重要なビジネスデータの品質確保に努めてきました。Preciselyのソリューションは、業績管理会計や収益認識などの業務に関する重要なビジネスデータの整合性を検証するために、企業全体において数え切れないほど多くのシステムおよびプロセスで使用されています。

2014年、A社は最先端の投資データハブを構築する新たな取り組みを開始しました。カスタディアン、参照データベンダー、サブアドバイザー アセット マネージャーといった外部のサードパーティ ソースから受領するデータを保護し、その品質を高めるために、Preciselyのソリューションを導入しました。外部データは、投資勘定、ディール配分、データウェアハウス、最終的な総勘定元帳などの重要なシステムに入力されるため、外部データの品質は最も重視すべき要素でした。

A社は、重要とはいえ、データ品質はデータ管理の方程式を構成する1つの要素に過ぎないことに気付きました。そこで、新しい企業データ管理戦略の合理化、新しい投資データハブの最適化、正確な保管勘定の調整、ROIの最大化を図るためには、企業データガバナンスが必要であることを認識しました。

## 課題

最高データ責任者(CDO)の指揮の下、A社は企業全体でデータガバナンス ツール、ポリシー、プロセスを確立し、導入するための積極的な計画を立案しました。手始めに、データ品質戦略の一環として導入されたコントロールに加え、ビジネス用語集を作成し、メタデータ、データオーナーシップ、定義、ビジネス属性ポリシーをスプレッドシートにまとめました。A社には、Salesforceに統合されたスプレッドシート ツールで管理されるシステム全体のデータ リネージを事業部単位で理解するという重要なニーズもありました。

「Data360 Govern は最もビジネス ユーザーが取り扱いやすいソリューションを提供してくれました。ビジネス チームとIT チームの双方が技術的介入を最小限に抑えて管理し、各チーム固有の要件に合わせてカスタマイズすることが可能になりました」

## クライアント

アメリカの大手相互生命保険会社。顧客数は500万人を超え、年間収益は320億ドル。保険、個人年金、退職年金、その他の従業員給付などの幅広い金融商品やサービスを提供。

## ビジネス上の課題

重要なシステム(同社の最新投資ハブ)に入力されるサードパーティ データを隅から隅まで可視化して管理するためのシステムを確立する。

## ソリューション

Precisely 360Data ソリューションにより、ビジネス ユーザーが取り扱いやすいデータ ガバナンスを実現。ビジネス ユーザーは、投資、会計、規制上の要件を満たすためにアナリティクスやインサイト データ資産を活用することがより簡単になり、自社のデータの品質に対する自信を深めることができた。

## 結果

- ・ 企業レベルのデータ ガバナンスおよび照合ソリューションを導入。手作業のスプレッドシート入力から自動プロセスに変更することで、カスタディアンおよびサブアドバイザーによる総勘定元帳の照合を支援。一方、データ責任者がデータをより適切に理解、管理、使用することを可能にした
- ・ さまざまなデータソースにまたがる問題解決を特定、追跡、確認するために自動ワークフロー、ケース管理、リソース割り当てを提供した
- ・ 業務管理コストを削減し、バックオフィス管理プロセスへの人間の介入を低減した
- ・ 重要なデータ資産とそれがビジネスに与える影響を一覧にした、ビジネス ユーザーが取り扱いやすい自動データ カタログを確立した
- ・ Cognos、Oracle、Eagle、Bloomberg、Factsetなどのさまざまなコアシステムおよびベンダーからの技術的メタデータの収集とカタログ作成を自動化した
- ・ 主要ビジネス プロセスのビジネス データ リネージを可視化した

こうしたデータ ガバナンスの取り組みは、ビジネス ユーザーと技術ユーザーの双方がデータをより効率的に管理、理解、使用しやすくするための重要な布石となりましたが、大部分が手作業のソリューションであるため長期的ソリューションに必要な自動化、導入、持続可能性といった要素が欠如していました。さらに、A社は以下のさまざまな課題も抱えていました。

- スプレッドシート入力ではミスが起こりやすいため、最新の状態を保つためには手作業による確認が必要。したがって、グループ作業や幅広い共同作業が難しかった。
- 主要アプリケーションの技術的なメタデータには、カスタムコードソリューションを開発したり、手作業によるインポートやカタログ作成が必要であった。
- データ リネージの技術的要素により、ビジネス ユーザーが理解または活用することを不可能に近くしていた。
- ライセンス許諾されたデータの使用权および使用状況は、追跡が難しいため説明責任を果たせなかった。
- 企業全体で、データのアクセス、権限、承認に関するポリシーとプロセスに可視性と説明責任が欠如していた。

クライアントは、こうした課題を解決し、企業としてガバナンス プログラムに求めている自動化、説明責任、持続可能性を達成するために、Precisely に助けを求めました。

## ソリューション

Precisely は、企業全体に拡張可能な段階的ガバナンス ワーキング モデルを定義するために、CDO およびガバナンス チームを交えたガバナンス ワークショップ セッションを何回も実施しました。ガバナンス チームによると、こうしたデータ ガバナンス セッションは、正しいツールの選択だけでなく、スキルセットや企業文化、組織で進行しているトランスフォーメーションを活用することにも有益であったと評価されました。

ガバナンス チームは、以下のように Precisely と競合他社との差別化要因をいくつか指摘しました。

- Data360 Govern はビジネス ユーザーが取り扱いやすいプラットフォームであるため、ビジネス ユーザーと IT ユーザーの双方がセルフサービス アプローチを取ることが可能。
- 柔軟性の高い堅牢なプラットフォームにより、データ変換、集計、高度な数式などのさまざまな種類の複雑なデータ資産を定義、自動入力、測定できる。
- 中央に集約された共同作業可能なインターフェイスとワークフローを含むソリューションにより、各ステークホルダーに対して更新や承認状況を今までにないレベルで可視化された。
- 多種多様なキー コネクタにより、Oracle、Bloomberg、Cognos、その他のコア システム アプリケーションからの技術的メタデータのインポートが自動化された。

## 結果

導入の最初の段階で、クライアントと Precisely は使いやすいデータ カタログを確立しました。このカタログは、ビジネス リソースと IT リソースが参照するための簡単に検索可能な共通用語を提供しました。ユーザーは技術およびビジネス向けのメタデータを参照するだけで、オーナーシップ、正式なソース、リネージをはじめ、特定のデータ アイテムをどのデータ ドメインが使用するかなど、管理対象のアーティファクトに関する重要情報が一目でわかります。

ビジネスチームがデータの移動をつぶさに把握できるように、A社は技術的データ リネージを拡張して簡単に設定可能な可視化されたビジネス リネージを追加しました。これにより、ビジネス ユーザーは、より細かい技術的詳細情報に捕らわれることなく、内容ががいつまで分かる抽象化レベルでリネージやデータの移動を確認できるようになります。

データ管理プログラムに含まれる評価指標の重要性を考慮し、Precisely は品質管理、照合、ガバナンスのための追加設定なしで使用できるダッシュボードを提供しました。さらに、クライアントは独自のダッシュボードや KPI を作成して、データや最も重要なメタデータを追跡することもできます。

投資部門でのデータ ガバナンスの初期導入が完了した後、A社は Precisely Data360 を退職年金 (401K) や退職基金などの別分野にも拡張するだけでなく、一般データ保護規則 (GDPR) やカリフォルニア州消費者プライバシー法 (CCPA) などの主要データ プライバシー規制要件に対処するために、計画の幅をさらに広げました。今後の展望として、サードパーティ ライセンス データ プロバイダーとそのデータセットに対する使用、開示、制限を監視して透明化するためのライセンス データ管理に関するユース ケースも検討中です。